

プレ DP「歴史」としての「地理総合」実践の振り返り

歴史担当 石垣 里枝子 徳原 拓哉 櫻木 萌季

1. はじめに

令和4年度より、17期生（本年度1年次生）で文科科目の地理総合がスタートした。本校のIBコースの教育課程は、高等学校学習指導要領とIBが定めるディプロマプログラムの両方を満たすものとなっており、学習指導要領に基づく地歴公民科必履修科目の「地理総合」「歴史総合」「公共」を教育課程に入れる必要があった。他教科の必修科目と全体の時間数との調整で3科目の教育課程への導入が難しいなか、DP歴史は「歴史総合」に読み替えることが可能なため、「地理総合」と「公共」をIB1年次生の必修科目としたが、その結果プレDP歴史の授業を昨年度までの「日本史A」から「地理総合」に変えざるを得なくなった。

したがってIBの歴史担当者にとって、歴史科目の「日本史A」で担ってきたプレDPの役割をどのように「地理総合」に組み入れるか、どのような「地理総合」の授業内容をIB生に展開すべきかが大きな課題となったのである。

ここでは、プレDPとしての地理総合(17期生)の実践報告と今後の課題について述べる。

2. 授業実践

2-1:プレDPとしてのねらいの設定

学習指導要領に基づく科目、単元の目標とは別に、プレDPとしてのねらいを考えた。

日本史Aでは明治以降の日本の近代史を学習内容の範囲とすることができたため、DPでの授業内容の前提となる知識、あるいは最終試験でも直接役に立つ知識の習得が可能であったが、科目の異なる地理ではその点が難しく、主に以下のことを主たるねらいとした。

- ① IBの学びの形式の実践と習得。具体的には生徒によるプレゼンテーションと質疑、議論を授業全体の軸とし、生徒が主体的・探究的に知識を深め、概念を構築する。
- ② キークエスチョン（単元ごとの学習内容の基軸となる問い）を設定し、IB歴史のエッセー評価基準にも規定されているように「設問の要求を理解し」、その要求に沿って自分なりの答えをつくるスキルを育む。
- ③ DP歴史で使用される6つのコマンドターム「分析しなさい」「比較・対比しなさい」「論じなさい」「評価しなさい」「考察しなさい」「どの程度」を理解する。
- ④ DP歴史の評価の中心となる試験問題、2、3に共通するエッセーライティングのスキルを育む。
- ⑤ TOKとのつながりを意識した問いとディスカッションの経験をする。

2-2:地理総合の単位・教科書等基礎情報

- ・1年次4月から12月の期間中に授業を行う2単位の科目である。（実際は週3時間）

- ・使用教科書 帝国書院『高等学校 新地理総合』
- ・担当者 地理専門の教員1名、世界史専門の教員1名 計2名によるチームティーチングの形式。この2名はそれぞれ、1月よりそのまま同じ生徒たちのDP 歴史SLとHLの授業担当になる。

2-3:授業の取組

授業の概要は次の表のとおりである。

時 期	取 組 内 容
4月初めの授業	オリエンテーション プレDPとしての地理総合の授業について IBの学びの特徴、プレゼン、ディスカッション等
4月半ば～	グループディスカッション テーマ：SDG s
4月後半～5月	プレゼンテーションの準備と発表：地球的課題について 6班で実施
6月	地球的課題についてのアクティビティ マインドマップ作製 高校生として何ができるか
6月末～7月前半	グループディスカッション テーマ：民族・言語・宗教
7月後半	エッセーライティングテスト（地球的課題）
7月末～9月	プレゼンテーションの準備と発表：言語・宗教・歴史と人々の生活 8班で実施
10月上旬～半ば	ワークショップ：多文化共生
10月後半	エッセーライティングテスト（世界の言語・宗教・歴史と人々の生活）
10月後半 ～12月上旬	プレゼンテーションの準備と発表：世界の産業と人々の生活 8班で実施
12月中～末	アクティビティとディスカッション：資料分析 資料の価値と限界 ワークショップ：自然災害と防災
12月半ば	テスト（世界の産業と人々の生活） 資料分析、ショートエッセー等

4月から12月までの間に、大きく3つの単元を設定し、3回6～8グループによるプレゼンテーションを実施した。その前後には導入や知識の整理のアクティビティとしてプレゼンテーションのテーマに沿う内容のグループディスカッションやマインドマップの作製と発表、グループによるワークショップ形式のアクティビティなどを行った。またプレゼンテーションが終わった後には、主としてエッセーライティング形式のテストを行い、評価の資料とした。こうした授業の流れは、1～3期生のプレDP 日本史Aの形式を踏襲するものであり、またDP 歴史の授業ともつながるものである。実際は同時に国際科のクラスでも地理総合を展開しており、IB 地理総合担当者の一人は国際科クラスの地理総合の担当でもあるため、国際科クラスの授業との共通性ももたせながら、IBのプレDPとしてのねらいを意識して授業を展開することとなった。

ここで実際のプレゼンテーションにおけるキークエスションの一部を紹介する。

上記の表で示された7月末から行われた2回目のプレゼンテーション「世界の言語・宗教・歴史と人々の生活」で設定したキークエスションである。

キークエスチョン	
1	Q1:イスラームの国々の宗教・生活・文化・農業（産業）はどのようなものか。 Q2:石油資源による経済成長が「イスラームの国（具体的な国名を挙げる）」に与えた影響はどの程度大きかったか。
2	Q: 2つの世界大戦から現在にいたる歴史の中で、イスラーム世界の国々と欧米列強の関係は協力的だったか、対立的だったか。（西アジアのイスラーム教国、アフリカのサハラ以北のイスラーム教国の事例）
3	Q1:ヒンドゥー教はインドの生活・文化にどの程度影響を与えてきたのか。 Q2:現在のインドの経済成長と課題はどのようなものか。
4	Q1:ラテンアメリカの人種・民族の特徴はどのようなもので、その形成にはどのような歴史的背景があったか。 Q2:外国資本による工業化は、ラテンアメリカの人々の生活にどのような変化をもたらしたか。
5	Q:ヨーロッパによる植民地支配の歴史は、サハラ以南のアフリカの社会と産業にどのような特徴をもたらしたか。
6	Q1: サハラ以南のアフリカと外国 IT 産業との関係はどのようなものか。 Q2:サハラ以南のアフリカの経済成長の取り組みは成功しているといえるか。
7	Q1:社会主義体制時代のロシア（ソ連）の「計画経済」はどの程度成功したか。 Q2:ロシアの国家体制の変化(ソ連解体後の社会主義体制から資本主義体制への変化)は、人々の生活と文化にどのような影響を与えたか。
8	Q1:ロシアの気候と環境は、ロシアの産業と食生活にどのような影響をもたらしているか。 Q2:ロシアの経済成長の背景と現在のロシアの経済的課題は何か。

これらのキークエスチョンは、基本的には地理総合の教科書の内容に沿ったものであるが、プレ DP としてのねらいを反映させている。まず上記 2-1 で示した①と②に取り組むことはもちろん、③のコマンドタームとのつながりを考えた。歴史の6つのコマンドタームを地理で使用するため、IB 地理でどのようなコマンドタームが使用されるかの確認を地理の指導の手引きで行った。DP 地理では、「正当化しなさい」「定義しなさい」「区別しなさい」「解を求めなさい」など歴史にはない、より多くのコマンドタームがあるが、歴史の6つのコマンドタームと同じものを含んでおり、この6つを地理総合で使用することで DP 歴史の授業へつなぐことができると判断した。上のキークエスチョンでは歴史でもよく使われる「どの程度」をいくつか使っている。

また、直接「評価しなさい」というコマンドタームは使用しなかったが、各地域、国の経済成長のプラス面、マイナス面（課題）、成功か失敗かを問うことで「長所と短所を比較し、価値を定めなさい」という「評価しなさい」に答えるスキルを育むと考えた。

その他プレゼンテーションの導入としてのアクティビティで「民族とは何か」「民族を決めるのは何か」というテーマでグループディスカッションと発表を行ったが、TOK への関連性を考え、このような問いを設定した。

3. 授業の成果と課題

3-1 授業の成果

9 ヶ月間の地理総合の授業を通して最も大きな成果は、生徒たちがプレゼンテーション

の準備と発表、ディスカッションやワークショップを通して主体的、探究的な学びを行うことができたということである。時として担当教員が期待する以上の知識や理解を示すこともしばしばであった。特にプレゼンテーションの後の質疑は活発で途切れることがないほどであった。またプレゼンテーションやエッセーライティングを通して、キークエスチョンを理解し、根拠を示しながら論理的にその答えを示す、というねらいについてはそのスキルを習得するためのスタートができたという評価ができる。同様にコマンドタームの理解、エッセーライティングのスキルについても、DP 歴史へつながる一歩になったと感じる。

当初は地理と歴史という科目の違いから、知識の構築の点では難しさを感じていたが、キークエスチョンの工夫によっては歴史の授業につながる知識を育むことができるという実感を持った。例えばイスラーム世界と欧米列強の関係、ヨーロッパによるアフリカの植民地化、ロシアの国家体制の変化、経済大国アメリカの形成など今年度設定したキークエスチョンでは、生徒たちは発表を通して歴史で扱う世界大戦期、冷戦期のヨーロッパ、アジア、アメリカの歴史につながる知識に触れることができたと感じる。

DP 地理ではグラフや統計資料の分析が重要である。今回最後のテストとその直前のアクティビティーで資料分析を取り入れた。資料からわかること、資料の価値と限界を考察したが、この資料分析は歴史でも試験問題 1 で扱う内容である。歴史の場合風刺画の分析が多いが、地図やグラフが出る可能性がある。地理総合ではエッセーライティングのスキルをねらいのひとつと考えていたが、実際には地理の内容であっても歴史の資料分析の理解につなげることができ、プレ DP としての授業のねらいをさらに加えることができるとわかった。

3-2 今後の課題と展望

以上のように、授業の工夫によって地理総合はプレ DP 歴史の授業として様々な成果を上げることができると考える。一方で科目の専門性の違いによる限界やさらなる工夫が必要なこともみえてきた。例えば地理の場合、より数字や統計による根拠が活用されるべきこと、歴史の場合、答えがないこと、さまざまな答えがあることが特徴だが、地理では答えが明確な場合が多いこと、ケーススタディを具体的に取り入れることが重要であることなどは、エッセーの評価基準の違いに直結する。歴史のプレ DP としての役割を担いつつ、その違いを DP 歴史でどのように生徒に理解させ、歴史的なアプローチに転換させるか、考えていかなければならない。またそのために地理総合での評価基準をどう改善するか検討していくことも大切であろう。さらに 3-1 授業の成果で触れたように、歴史的知識につなげるキークエスチョンをさらに工夫すべきか、地理的な問いと探究を育むことに重きを置くか、担当者同士での意見交換も行っていきたい。

実際に 1 年次にプレ DP として地理総合を受けた IB の生徒たちが、最終試験を迎えるまでにどのような点で困難が出てくるのか、あるいはどのようなプラス面があるのか、今後の過程を経験しつつ、課題と対応を長期的に見ていくことが大切であろう。

また学習指導要領に基づく科目として、国際科の授業の研究ともリンクさせ、工夫できる点を共有し、プレ DP の授業としてもより良いものとなっていくよう考えていきたい。